

大阪医科大学学報

第20号 平成6年5月



大学管理棟（役員室）小庭園より総合研究棟を望む

◆目

法人（寄附行為変更）	2
入学式（学長告示）	6
定年退職教授の最終講義	6
新任教授紹介	7
規程（制定・改正）	10
図書館長・附属病院長・附属看護専門学校長の就任	14
人事 （名誉教授称号授与、採用、 退職、昇格・異動、休職・ 復職、委嘱・解職、海外 渡航、（留学、帰学、出張）	15～21

◆次

教室紹介	22
入試・国家試験状況（学部、大学院、看護専門学校）	23
平成6年度主なる事業計画	23
学位記授与	24
平成6年度収支予算	26
卒業式（附属看護専門学校卒業生の答辞）	28
海外出張記	29
医学の散歩道	30
会議・行事予定	31
附属病院（診療動態）	35

寄附行為変更 に際して

本法人の寄附行為を変更するにあたりましては一言ご挨拶申し上げます。

学校法人の寄附行為の変更は国でいえば憲法の改正にも相当する大学にとって最も重要な根本規則の変更であります。

本学は、その前身である財団法人大阪高等医学専門学校として昭和2年2月に設立され、学校が4月に開設されて以来67年にわたって多くの人材を世に送り出し、関西における私立医科大学の名門として医学・医療をとおして社会の発展に大きく貢献してまいりました。

創立以来、何回か寄附行為の変更がなされてまいりましたが、今回の寄附行為変更は、大きく変化する時代の変遷に対応し、本学が今後益々発展する為に行われたものであります。

昨年5月に中井理事を委員長とする寄附行為改正委員会が発足し、今回ようやく寄附行為の変更が成立の運びとなりましたことは、ひとえに委員長をはじめ同委員の皆さんの非常に精力的な努力の結果によるものであります。委員会発足以来成案までに長時間を要し、また種々の紆余曲折はありましたが、これも本学内ならびに本学関係者のご意見を広く承り、整合性をはかり、より公正妥当で立派な改正案を作成するためにはやむをえなかったものと思います。改めて関係者の皆様のご尽力に深く感謝の意を表します。

本法人は、医学を通して広く社会に貢献するために設立された公益法人であり、大学は社会のものであって個人の誰に所属するものでもありません。優れた資質を有する者を選んで入学させ、6年間を費やして医学を教えることは言うに及ばず、人間的にも立派な優れた卒業生を世の中に送り出すことが大学に課せられた使命そのものであり、どのような人材を今まで本学が養成してきたかを世に問われることにもなります。本学が益々健全な発展をするためには是非とも皆様方の一層のご尽力を賜りたいと思います。

なお、去る2月1日から本学附属病院は特定機能病院に指定され、医学の教育、研究の場としては勿論、地域医療の面におきましては高度先進医療を受け持つことになりましたが、私立医科大学のおかれた社会的環境には一層厳しいものがあり、衆知を集め、全員一丸となってこの難局に対処してゆかねばなりません。

目前に迫った21世紀に向けて、益々加わる医科大学の使命の重要性に鑑み、新しい規程のもとにご就任頂く評議員の皆様方には、何卒貴重なご意見を賜りたくお願いする次第であります。

平成 6 年 5 月

学校法人大阪医科大学

理事長 宮 崎 重

寄附行為変更の経緯について

寄附行為変更の件がこの度、文部大臣の認可を得て、施行の段階になったのを機会に、寄附行為改正委員会委員長として今までの経過を報告します。

改正委員会は昨年5月、理事会に於て寄附行為「第5章評議員会」の検討について付託をうけ、発足したものであります。

本法人理事会は、文部省より、評議員会に関して構成が均衡を欠いていること、各号定数についても、若干名で不的確であるなどの助言をうけたことから、現行寄附行為については、評議員会の条項以外にも不備な点はあると思われるが、さしあたり、指摘をうけた評議員会の条項について早急な対処が必要であり、今回は、主として第5章評議員会の検討を行うことを理事会・評議員会にはかり、理事4名で構成する改正委員会を設置して、見直しに取り組むことになった次第であります。

その後、改正委員会は、同窓会を含め広く有識者の意見をきく方針のもとに、学内構成員である教職員の代表、並びに本学卒業生（同窓会の役員）の方々と度々委員会を開催して意見をきくなど、10数回に及ぶ審議を行い、評議員会に於ても何度かご意見を頂き、先般、委員会発足後約一年を経て、漸く成案を得るに至りました。皆様のご協力の賜物と御礼申し上げます。

なお、この間の検討経過の中で、各位から提議された派生的事項については、課題として理事会に報告しており、今後、更なる検討が必要かと存じます。

今回の変更について、各号（教職員、卒業生、学識経験者）の均衡、定数増をはかったことその他、変更前の規定と比較対照して頂きたいと思えます。

平成6年5月

寄附行為改正委員会

委員長 中 井 益 代

寄附行為変更の内容

- 本法人寄附行為の変更は、平成6年4月19日付をもって文部大臣の認可を受けました。一般の変更は、第5章「評議員会」に関する条項の改正であり、その主な内容は次の通りであります。
1. 現行寄附行為に規定されている評議員の定数を改めて、各号評議員（教職員評議員、卒業生評議員、学識経験者評議員）のそれぞれの定数を明確にし、且つその均衡をはかること。
 2. 評議員を、広い分野から選任し、評議員会の自主的機能を充実すること。
 3. 評議員会議長の選出方法を改めること。
 4. 変更寄附行為は平成6年6月1日から施行すること。
 5. 寄附行為細則を制定して、評議員の選任方法を明確化すること。

寄附行為変更条項の新旧対照表及び寄附行為細則は次の通りであります。

新旧比較対照表

新	旧
<p>第5章 評議員会</p> <p>第14条 評議員会は左に掲げる評議員をもって組織し、その定数を26名以上32名以内とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本法人の職員（本法人の設置する学校その他の施設に勤務する教員その他の職員を含む）のうちから選任される者 <u>8名以上10名以内</u> 2 本法人の設置する学校（本法人の前身者が設置した学校を含む）を卒業した者で年令25年以上のものの中から選任される者 <u>8名以上10名以内</u> 3 大阪医科大学長 4 本法人理事長 5 学識経験者 <u>8名以上10名以内</u> <p>二 <u>第1項第1号第3号及び第4号に規定する評議員はその職を退いたときは、評議員の職を失うものとする。</u></p>	<p>第5章 評議員会</p> <p>第14条 評議員会は左に掲げる評議員をもって組織し、その定数を<u>19名以上</u>とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本法人の職員（本法人の設置する学校その他の施設に勤務する教員その他の職員を含む）のうちから選任される者 <u>若干名</u> 2 本法人の設置する学校（本法人の前身者が設置した学校を含む）を卒業した者で年令25年以上のものの中から選任される者 <u>若干名</u> 3 大阪医科大学長 4 本法人理事長 5 <u>本法人に関係ある学識経験者 若干名</u> 6 <u>理事のうちから選任される者 若干名</u> <p>二 <u>前項第1号第2号第5号及び第6号に規定する評議員の各号別の定数は理事会において定める。</u></p> <p>三 <u>第1項第1号第3号第4号及び第6号に規定する評議員は其職を退いたときは、評議員の職を失うものとする。</u></p>

第15条 前条第1項第1号、第2号及び第5号に規定する評議員は理事会において選任する。

第16条 評議員（第14条第3号及び第4号の評議員を除く。本条中以下同じ。）の任期は5年とする。

二 評議員は再任されることができる。

第17条 評議員会の議長は評議員会において選出する。

第19条 左に掲げる事項については理事長においてあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- 1 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び重要な資産の処分に関する事項
- 2 寄附行為の変更
- 3 合併
- 4 私立学校法第50条、第1項第1号及び第3号に掲げる事由による解散
- 5 その他学校法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認める事項

附 則

- 1 この寄附行為は、文部大臣の認可（平成6年4月19日）を得て、平成6年6月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、この寄附行為の規定による評議員（第14条第1項第3号及び第4号の評議員を除く。以下同じ。）の選任は、平成6年5月31日までにすることができる。
- 3 平成6年5月31日現在在任する評議員は、同日をもって、その任期が満了するものとする。

第15条 前条第1項第1号及び第2号に規定する評議員は大学長の推薦する候補者のうちから理事会において選任する。

二 前条第5号に規定する評議員は理事会において選任する。

三 前条第6号に規定する評議員は理事の互選により定める。

第16条 評議員（第14条第3号及び第4号の評議員を除く。本条中以下同じ。）の任期は5年とする。

二 評議員は再任されることができる。

三 評議員は、その任期満了の後でも後任者が選任されるまでは、なおその職務を行う。

第17条 評議員会の議長は理事長これに当る。

第19条 左に掲げる事項については理事長においてあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- 1 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び重要な資産の処分に関する事項
- 2 寄附行為の変更
- 3 合併
- 4 私立学校法第50条、第1項第1号及び第3号に掲げる事由による解散
- 5 その他学校法人の業務に関する重要事項で理事長において必要と認める事項

以 上

学校法人大阪医科大学寄附行為細則

学校法人大阪医科大学寄附行為（以下、寄附行為という。）第27条の規定にもとづき、寄附行為細則を次のとおり定める。

第1条 寄附行為第15条に規定する理事会による評議員の選任は、次のとおりとする。

1 第14条第1項第1号に規定する評議員

病院長、図書館長、学生部長、事務局長、病院事務部長、薬剤部長、看護部長、看護専門学校長はその在任期間中、その他の職員は学長から推薦された者について、理事会において選任する。

2 第14条第1項第2号に規定する評議員

卒業生を構成員とする会の代表者から推薦された者について、理事会において選任する。

3 第14条第1項第5号に規定する評議員

評議員会の意見を聞いて、理事会において選任する。

附 則

この寄附行為細則は、平成6年6月1日から施行する。

希望に燃え入学式

春は希望のシーズン、大学も建学の意欲に燃える新入生を迎え、4月11日医学部医学科に続き、同15日には大学院医学研究科の入学式が挙行された。また、看護専門学校の入学式も同8日にとり行われた。

平成6年度入学式

1) 医学部医学科

4月11日（月）午後2時より103名
於 大学臨床第一講堂

2) 大学院医学研究科

4月15日（金）午後2時より26名
於 大学臨床第一講堂



（医学部卒業式後の歓談）

3) 看護専門学校

4月8日（金）午後1時より
於 大学臨床第一講堂
第一看護学科 55名
第二看護学科 44名

学 長 告 示 (要約)

智・徳・体身につけよ

本日ここに、103名の優秀な諸君を迎えたことは、当医学部にとって大きな慶びであり、心から歓迎致します。

本学は昭和2年に創設され、以来67年。卒業生は7,037名を数えます。その6割以上が現在も診療の第一線、医学の教育・研究の現場において社会貢献を続けています。また国公立にはない自由で特色ある学風、家族的雰囲気を持ち、高い国家試験合格率、優れた教授陣、教育・研究設備を整え、わが国有数の私立医科大学として定評を得ております。新入生の諸君は、その一員たるの自信と誇りをもって、立派な医師を目指していただきたい。

今日、諸君が医学を学ぶ門出に当たり、申し述べたいことは、患者の精神的、肉体的な痛みを感じ取れる医師になってほしいということです。いうまでもなく医師は「尊い生命」を預かる職業であります。最善をつくして医術を練磨する覚悟を持つことはもちろん、一般の人々から尊敬の念をもって接せられる立場として、人の師表となる優れた識見と人格を兼ね備えることが求められています。

医学を志すものの必須の要件は、第一に「自ら学ぶ」心構えです。若い情熱をもって、6年間の厳しく、かつ多くの学習を極める中で「自ら積極的に学ぶ精神」を体得し、卒業後も医学・医療の進歩に遅れることなく、また社会のニーズに応え得る力をつけていただきたい。

もう一つ大切なことは「人格の形成と健康な身体を鍛える」ことです。受験勉強中に「合格

したらやろう」と思っていたであろう多くの事を是非実行してほしい。皆さんが体力・気力を鍛練し、スポーツマンシップを身につけるための最高の環境と施設は用意されています。6年間の学生生活では、勉強をした上で、クラブ活動を通し、すばらしい友情関係も育てていただきたい。

大学生になれば世間では大人として扱われますが、まだ社会経験は未熟です。しかし純粋で正義感に富み、日本の将来を託すにふさわしい、素晴らしい人間になる無限の可能性を秘めています。その期待に応えた成長をするかどうかは一に諸君の努力と心がけにかかっています。

最近「医の倫理」という言葉がしきりに問題になっています。医師として広い知識と優れた技術を身につける以上に、立派な人格、強い倫理感を持つことが望まれています。諸君が在学中努力をされ将来「智・徳・体」を兼ね創造性豊かな医師として成長されることを心から期待するものであります。

平成6年4月11日

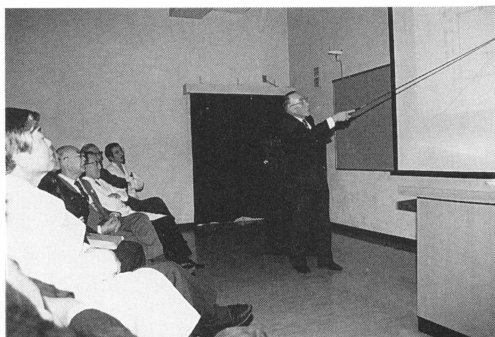
学 長 松 本 秀 雄

定年3教授の最終講義

この3月定年を向えられた病理学第一講座中田勝次教授、内科学第二講座大柴三郎教授、胸部外科学講座武内敦郎教授の最終講義が下記のとおり行われました。

〈病理学第一講座 中田教授〉

1. 日時 2月22日(火) 13:40~15:30
1. 場所 講義実習棟 第一講義室
1. 演題 『病理学50年の回顧』



(中田教授の講演風景)

〈内科学第2講座 大柴教授〉

- 1. 日時 2月23日(水) 15:00~16:30
- 1. 場所 臨床第1講堂
- 1. 演題 『第2内科における
消化器病学の動向』



(大柴教授の講演風景)

〈胸部外科学講座 武内教授〉

- 1. 日時 3月2日(火) 15:00~16:30
- 1. 場所 臨床第1講堂
- 1. 演題 『胸部外科の過去と現在』



(武内教授講演後の花束贈呈)

新任教授、抱負を語る

この春新しく本学教授に就任されました、芝山雄老教授(病理学Ⅰ)勝健一教授(内科学Ⅱ)佐々木進次郎教授(胸部外科学)3名の簡単なプロフィールと、教授就任に当たっての言葉を紹介します。

身の引き締まる思い

人体病理研究に恵心

病理学第1講座

芝山雄老教授 46才



昭和47年3月本学卒業。
昭和51年3月本学大学院修了。医学博士。
昭和51年4月講師(病理学)。
同年8月より2年間カナダトロント大学へ留学。
昭和56年4月助教授(病理学)。
平成6年4月1日本学教授就任。

このたび、中田勝次教授の定年退職に伴い、その後任として4月1日より病理学第一講座を担当致すことになりました。江口季雄教授、波多野輔久教授、田部浩教授、中田勝次教授と四代にわたり築き上げられた伝統ある教室を受け継ぎ、身の引き締まる思いです。もとより、浅学非才で身に余る重責ですが、教室の伝統を守り、教育、研究および病院病理を一層充実発展させるべく最善の努力をし、大阪医科大学の発展に寄与したいと思っています。

私は昭和47年に大阪医科大学を卒業後、同大学院で病理学を専攻し、中田勝次教授に人体病理学と実験病理学の手解きを受けました。実験病理学に関しては肝臓を中心とする循環障害の病理を研究してきましたが、新しい分野の研究

も積極的にやりたいと考えています。病理解剖は病理学の教育および研究の原点であり、私はこれを重要視しています。このような立場にたつて、日常の病理解剖を大切に、診断、治療に寄与するような人体病理学の研究を行いたいと考えています。しかし、医学の急速な進歩および細分化のために病理学教室のみで医学の全領域をカバーすることは不可能に近く、臨床の要望に応えるためにも臨床各科との積極的な人的交流を計るとともに情報を交換する必要があると考えています。

病理学教室の重要な役割の一つに医療としての病院病理があり、病理学教室は病院病理業務を担当するとともにそのための人材養成を求められています。この病院病理の役割は近年急速に大きくなり、病理学教室はその対応を迫られています。これに関しては、中央検査部病理、病理学第二講座および臨床各科と協調して大阪医科大学に最も適した病理共同体の在り方を模索して行きたいと考えています。

また、医科大学は地域の中核的医療および医療機関であることから、病理学教室は看護婦を始めとする医療従事者の教育にも積極的に参加するとともに病理解剖および病院病理を通して地域医療の質的向上に寄与する必要があると考えています。

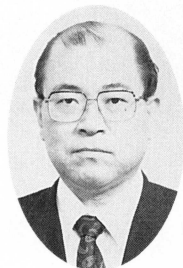
現在、教室員は若い人達ばかりで、教室は活気に満ち溢れています。しかし、その数は僅かに6名です。私に課せられた最も大きな使命は一人でも多くの優れた病理医、病理学者を育成し、将来の病理学教室を担う人材を育て上げること、そして病理学の素養を体する真に優れた臨床家を育てることであると考えています。皆様の暖かいご指導、ご支援、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

母校復帰の喜び胸に

心技備えた人材育成を

内科学第2講座

勝 健 一 教授 55 才



昭和40年3月本学卒業。
医学博士。

昭和44年5月東京医科歯科大学助手（医学部心臓血管研究施設）。

昭和48年4月第三内科へ移動、東京都三楽病院、東京労災病院（消化器科部長）を経て昭和59年2月埼玉医科大学助教

（第三内科）。

平成元年2月同教授（第三内科）。

平成6年4月1日本学教授就任。

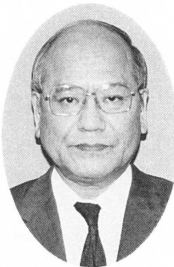
昭和40年に母校を卒業して以来、26年目にはからずも帰ってくることになりました。在学中から当時第二内科の教授であられた岩田繁雄教授にはひとかたならぬご指導とご配慮をいただきまして5回生からは毎年聖路加病院のエクスターンに推薦状を頂き、卒業のときには岩田内科に入局を勧められました。家庭の事情で東京に帰らざるをえませんでした。当時病院長であられた先生には学友会の委員長をしていた小生はいろいろとご心配をおかけいたしました。本学での学生時代は小生の青春の大きな思い出であります。かつて戦場にかける橋のモデルになった進軍において脳裏に浮びでるのは大学の校歌“かのアマゾンの岸の花 はた崑崙かゴビの原 我等の春は遠くとも……”と、剣道部の部歌“友よ難苦に迷う時……灼熱の意気血を焼かん……さらば男の子よ血を呑まん……”であったと話しておられた剣道部の先輩方がおられました。小生が関東において何かにつけて湧きでてくるメロデーもまさに同じで、不思議と耐えることの必要な時にでてくる呪文のようなものでした。この度、第二内科の教授を拝命する

あたり友情と愛と奉仕の精神に基づく病を癒す学問と医療を世界に提供できる医師と学者の育成を目指したいと考えております。さいわいにも岩田教授、大柴教授にご指導をうけた優秀な先輩と教員が数多くおられますので一丸となつてご協力いただき、国内はもとより世界に大きくはばたく人材を育成できることを生涯の課題と考えております。われわれが携わっている医療の分野はお釈迦様が出家した動機とされている生老病死を対象とした職業であります。近年の社会的傾向と要求を鑑みても医学教育および医師の教育は科学的であり、哲学的であり、宗教的でなければならない領域であると考えております。その様な観点を含めて科学的・人間社会学的な医師として後輩の育成ができますことが小生にとっての夢であります。未熟な若輩者ですが母校の発展と将来に残りの人生をかける所存でありますので先輩諸氏のみならず関連教育機関の皆様のご支援、ご協力を心からお願いいたします次第であります。

二領域の円滑運営を 医学新時代に即応する

胸部外科学講座

佐々木 進次郎 教授 59 才



昭和34年3月本学卒業。
昭和39年3月本学大学院修了。医学博士。
昭和39年8月助手（第二外科）。
昭和42年7月講師（外科学）。
昭和46年11月より1年間米国南カリフォルニア大学へ留学。

昭和51年8月助教授（外科学）。
平成6年4月1日本学教授就任。

本年4月1日武内敦郎先生の後任として本学胸部外科学教室を担当させて頂くことになりました。学生時代を含め約40年間お世話になって

来た母校の教授を拜命することは、この上ない光栄であります。同時に責任の重大さを痛感しているところです。この教室は故麻田栄先生によって基礎が築かれ、昭和51年4月武内教授の下で正式に胸部外科学教室として発足しました。両先生の育てて来られた教室の伝統を守りながら、教室並びに母校のさらなる発展に微力を尽くしたいと存じます。本学の胸部外科教室はご承知の通り、心臓大血管科と肺縦隔外科を2本柱としております。この2領域における研究・診療・教育が円滑に行われるよう調整するのが今後私に課せられた務めと考えております。

私自身は30数年間一貫して心臓大血管の外科に携って来ましたが、その間に手術の対象となる疾患が著しく変貌して来ました。30年間を一応前、中、後の3期に分けてみますと、第1期は先天性心疾患、第2期はリウマチ性弁膜症、第3期は虚血性心疾患が主な対象となっています。疾患の好発年齢からみて当然といえますが、最近、高齢の患者さんが増加するとともに、心臓以外の他の臓器の機能不全を有する例が多くなって来ました。従って、このような患者さんの手術成績を向上させるには、術前後管理や術中の心筋保護法に関する地道な研究を今後とも続行していくことが大切と考えます。一方、近年、カテーテル法の技術を駆使した半侵襲的な治療法があい次いで開発されており、心臓病の治療も患者さんの価値観やQOLを考慮して、個々に最適のものを選択する時代に入ったといえます。

教室の今一つの研究・診療領域である肺縦隔外科については、私自身これから大いに勉強しなければならないと思っています。幸い人工心肺を用いる手術には慣れておりますので、大血管合併切除を要するような肺癌などの手術には積

極的に参加するつもりです。しかし一方、心臓外科の場合と同様、患者さんの QOL を考慮した機能温存手術や集学的治療も推進する必要があります。他科との連携・協力が大切な所以です。

心肺移植については種々論議がありますが、移植の他に救命の道のない重症な心不全や呼吸

不全の患者さんのいることも事実です。この分野の研究は是非とも推進させたいところです。

情熱あふれる若い諸君に大勢入局して頂き、診療・研究を進めながら、技術と学識のバランスが程よくとれた“よい外科医”を育成したいと思っています。



規 程

◎本年9月新図書館を開館するにあたり、従来内規で行ってきた運用を現状に則したものと正式に本学図書館の規程として制定することになりました。

その規程の内容は次の通りであります。

大阪医科大学 図書館規程を制定

(趣 旨)

第1条 大阪医科大学学則第63条により、この規程を定める。

(目 的)

第2条 大阪医科大学図書館（以下「図書館」という）は、図書（視聴覚その他の資料を含む）を収集管理し、本学教職員および学生などの利用に供し、医学の教育と研究の推進に資することを目的とする。

(組 織)

第3条 図書館に分室を設けることができる。
2 図書館には関係図書を収蔵し、その管理と運用を行う。

(利用の許可および資格)

第4条 利用資格者は本学構成員とする。
2 その他図書館長が相当と認めたもの。
3 利用者は図書館の定める「利用内規」

を遵守しなければならない。

(図書館長、職員等)

第5条 図書館に次の教職員をおく。

一 図書館長

二 教員および職員

2 図書館長は学長の監督のもとに図書館の業務を掌理する。

3 教員および職員は図書館長のもとに図書館の業務に従事する。

4 図書館長の選考は「大阪医科大学図書館長選出に関する規程」の定めるところにある。

5 教員の選考に関する必要な事項は別に定める。

(運営委員会)

第6条 図書館の管理運営に関する事項を審議するため、図書館運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

2 運営委員会の組織および運営については別に定める。

(補 則)

第7条 この規程に定めるものの他に図書館に関して必要な事項は別に定める。

2 学校法人大阪医科大学寄附行為第2条により設置された看護専門学校図書館を図書館内に併設することができる。その運営に関

しては別に定める。

3 この規程の改正は運営委員会の議を経て教授会の承認をもって行うものとする。

(附 則)

この規程は平成6年4月1日から施行する。

図書館運営委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は大阪医科大学図書館（以下「図書館」という）規程第6条第2項により、図書館運営委員会（以下「運営委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 運営委員会は、図書館の管理と運営に関する事項を協議する。また、図書館内に併設された大阪医科大学附属看護専門学校図書館と運営に関する共通事項を協議するため合同運営委員会を開く。

(組 織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 図書館長
- 二 学生部委員会から選出された教授2名
- 三 進学課程から選出された教員1名
- 四 専門課程の基礎医学（社会医学を含む）系から選出された教員3名
- 五 前号の臨床医学系から選出された教員4名
- 六 図書館の教・職員から3名

2 前項第二号から第六号までの運営委員の任期は、毎年4月1日を始期とする2年とし、任期の途中で欠員を生じたときは、直ちにその選出団体から補欠委員を選出する。

3 補欠委員の任期は、前任者の残留期間と

する。

4 第2項の委員は再任されることができる。

5 運営委員と附属看護専門学校から選出された教員または職員1名を合同運営委員会の委員とする。

(委員長)

第4条 運営委員会（以下合同運営委員会を含む）に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

2 委員長は運営委員会を召集し、その議長となる。

(議 事)

第5条 運営委員会は、総委員の二分の一以上の出席（委任状による出席を含む）がなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 採決を要するときは、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決すところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長は必要があると認めた時は、委員会の承認を得て委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聴取することができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会に専門の事項を調査検討させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員は運営委員会の委員長が委嘱する。

(補 則)

第8条 この規則に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

2 この規則の改訂は、運営委員会の議を経て、教授会の承認をもって行うものとする。

(附 則)

この規則は平成6年4月1日から施行する。

◎本学附属病院の人工腎臓センターを効率よく運営していくため下記規程が設けられました。その規定は次の通りであります。

大阪医科大学附属病院 人工腎臓センター規程

(設 置)

第1条 大阪医科大学附属病院（以下「本院」という）に人工腎臓センターを置く。

(業 務)

第2条 人工腎臓センターは、本院における腎不全（肝不全、薬剤中毒者その他を含む）患者の血液浄化療法を行う。

(職員及び職務)

第3条 人工腎臓センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長（兼任）
- (2) 副センター長（兼任）
- (3) 医 師（兼任）
- (4) 看 護 婦
- (5) 技術職員等

2 センター長は、臨床教授の中から教授会が推薦し、学長が委嘱する。その任期は2年とし、再任を妨げない。

3 センター長は、人工腎臓センターの管理運営に当たる。

4 副センター長は、臨床の助教授、講師もしくは助手のうちからセンター長が推薦し、学長が委嘱する。その任期は2年とし、再任を妨げない。

5 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

6 医師は、センター長の命を受け、それぞれの業務を処理する。

(人工腎臓センター運営委員会)

第4条 人工腎臓センターの円滑な運営を図るため、人工腎臓センター運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

2 運営委員会は、次の号に掲げる事項を審議する。

- (1) 人工腎臓センターの管理運営に関すること
- (2) その他必要な事項

(委 員)

第5条 運営委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 診療科から選出された者若干名（浄化療法の実施に関与する科、ないしは浄化療法の対象となる疾患に関連する科の両者より）
- (4) 看 護 婦 1人
- (5) 技術職員等 1人
- (6) その他人工腎臓センター運営上センター長が必要と認めた者

2 前項第3号～第6号の委員は、センター長が委嘱する。その任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委 員 長)

第6条 運営委員会に委員長を置き、人工腎臓センター長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

(運営委員会の招集及び定足数等)

第7条 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

2 運営委員会は、委員の3分の2以上の出

席により成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。可否同数の場合は、議長が決するところによる。

(意見の聴取)

第8条 運営委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(雑 則)

第9条 この規程に定めるもののほか、人工腎臓センターの業務の実施に関し、必要な事項は、センター長が別に定める。

2 この規程の改廃は、教授会の承認をもって行うものとする。

附 則

1 この規程は、平成6年2月2日から施行する。

2 この規程制定当初のセンター長、副センター長及び第5条第1項第3号委員～6号委員の任期は、第3条第2項・第4項及び第5条第2項の規程にかかわらず、平成6年3月31日までとする。

就業規則を一部改正

今般、労働基準法の改正（平成6.4.1施行）に伴い、それに関連する就業規則の一部（第8条、第13条、第19条、第24条及び別表）が下記のとおり改正されました。

1. 第8条中「44時間」を「40時間」に改める。
2. 第13条中「50分」を「1時間」に改める。
3. 第19条第4号中「48時間」を「40時間」に改める。
4. 第24条第1号中「1ヶ月につき1日」を「10日」に、同条第2号中「9日」及び

「8日」を夫々「11日」に改め、同条第3号の次に「4年次有給休暇を受けることが出来る職員が、その前年に年次有給休暇の残余日数がある場合は、1年に限り当該年（暦年）に繰り越すことが出来る。」を加える。

5. 別表休憩欄中「50分」を「1時間」に改める。

6. この改正は、平成6年4月1日から施行する。

但し、施行日前に採用後6ヶ月に達したものについては、採用後満1ヶ年に達するまでは改正後の第24条の規程にかかわらず、なお従前の例による。

給与規則を一部改正

今般、宿日直手当支給額の変更、及び労働基準法の改正（平成6.4.1施行）により給与規則の一部（第7条、第8条及び第10条）が下記のとおり改正されました。

1. 第7条第1号中「9,400円」を「9,800円」に、「14,100円」を「14,700円」に、同条第2号中「5,900円」を「6,100円」に、「8,850円」を「9,150円」に夫々改める。
2. 第8条但し書き中「1日の実働8時間」を「1週間の法定労働時間」に、「2割5分を加算する。」を「1.0を1.25とする。」に夫々改める。
3. 第10条に次のとおり但し書きを加える。
「但し、法定休日の休日出勤手当については、月給者にあつては1.25を1.35に、日給者にあつては2割5分増を3割5分増とする。」
4. この改正は、平成6年4月1日より施行

する。

住宅手当支給規程を一部改正

今般、住宅手当支給額の変更により住宅手当支給規程の一部（第2条）が下記のとおり改正されました。

1. 第2条第3号中「4,200円」を「4,600円」に改める。
2. この改正は、平成6年4月1日より施行する。

旅費支給規程を一部改正

今般、学会出張旅費支給枠の増枠により旅費支給規程の一部（特例第1項）が下記のとおり改正されました。

1. 学会出張の支給は1会計年度を通じて各教室の教員定数以内とする。
但し、教室員定数が8名以内の教室は延8名以内とする。
又、同一人の支給は年3回以内とする。
(2) 教員以外の職員の学会出張旅費支給の人員は、別に定める人員以内とする。
2. この改正は平成6年4月1日から施行する。

図書館長及び 附属病院長の就任

図書館長及び附属病院長は、本年3月31日付をもって夫々任期満了により退任され、新図書館館長に藤本守教授（再任・第2生理学）、新附属病院長に美濃眞教授（小児科学）が4月1日付で就任されましたのでお知らせします。



藤本 守 図書館長



美濃 眞 病院長

附属看護専門学校長の就任

永年、看護専門学校長としてご尽力頂きました武内敦郎看護専門学校長が本年3月31日付をもって教授職を定年退職され、看護専門



小野村 敏信
看護専門学校長

学校も辞任されましたので、その後任として4月1日付で小野村敏信教授（整形外科学）が就任されましたのでお知らせします。

人 事

法 人

理事退任	有原 康次	3.31
〃	岡島 邦雄	〃
理事就任	美濃 眞	4. 1
評議員退任	有原 康次	3.31
〃	柴谷 貞雄	〃
〃	河邊 六男	〃
法人顧問	武内 敦郎	4. 1

名誉教授称号授与

河邊 六男 (前 物理学 教授)	4. 1
中田 勝次 (〃 病理学 I 教授)	〃
大柴 三郎 (〃 内科学 II 教授)	〃
武内 敦郎 (〃 胸部外科学教授)	〃

〔採 用〕

助 手	高原 得栄 (産婦人科学)	2.16
技 術 員	中島美佐子 (病院薬剤部 薬 剤 課)	〃
助 手	田中 聡 (形成外科学)	3. 1
用 務 員	新谷 幸代 (病院事務部 栄養給食課)	〃
短 時 間 雇 用 職 員	井上 明美 (病院看護部)	〃
技 術 員	中埜 まゆ (病院薬剤部 薬 剤 課)	3.16
教 授	勝 健一 (内科学 II)	4. 1
講 師	中川アユミ (英 語)	〃
〃	黒岩 敏彦 (脳神経外科学)	〃
助 手	大黒恵理子 (解剖学 I)	〃
〃	森 禎章 (生理学 II)	〃
〃	末次 由実 (医 化 学)	〃
〃	塩田 直孝 (薬 理 学)	〃
〃	金川泰一朗 (一般・消化器 外 科 学)	〃
〃	山名 健 (麻 醉 科 学)	〃
〃	中筋 一夫 (皮 膚 科 学)	〃
〃	貞岡 達也 (耳鼻咽喉科学)	〃

助 手	藤原 裕樹 (耳鼻咽喉科学)	4. 1
〃	山田 隆司 (産婦人科学)	〃
〃	山本 匡彦 (病態検査学)	〃
事 務 員	有友 彰一 (総務部庶務課)	〃
〃	佐藤 雪絵 (病院事務部 医 事 課)	〃
〃	奥田貴美子 (病院事務部 栄養給食課)	〃
〃	江口 真紀 (病院輸血室)	〃
技 術 員	坂上 陽子 (衛生学・ 公衆衛生学)	〃
〃	遠藤 宏 (病院麻酔科)	〃
〃	百々令巳子 (病院眼科)	〃
〃	奥村 大樹 (病院放射線科)	〃
〃	作田 真 (〃)	〃
〃	和泉多恵子 (病院中央検査部)	〃
〃	繁 正志 (〃)	〃
〃	江湊 聡 (病院リハビリ テーショソセンター)	〃
〃	齋藤久美子 (〃)	〃
〃	白井 由美 (〃)	〃
〃	高橋 裕美 (病院輸血室)	〃
技 能 員	松浦みさを (総務部庶務課)	〃
〃	松藤 昇 (病院事務部 施 設 課)	〃
用 務 員	金井 義雄 (実験動物センター)	〃
看 護 婦	青木 香織 (病院看護部)	〃
〃	青木まゆみ (〃)	〃
〃	芦田真土香 (〃)	〃
〃	麻生 千晶 (〃)	〃
〃	網野 泉 (〃)	〃
〃	荒川八重美 (〃)	〃
〃	安藤さやか (〃)	〃
〃	池田 美香 (〃)	〃
〃	井村 典子 (〃)	〃
〃	魚谷 緑 (〃)	〃
〃	大内 史代 (〃)	〃
〃	大城加代子 (〃)	〃
〃	太田さゆり (〃)	〃
〃	大出 真紀 (〃)	〃
〃	大原 美佳 (〃)	〃
〃	岡部 祥子 (〃)	〃

看護婦	小川貴美子 (病院看護部)	4. 1
〃	小野 智子 (〃)	〃
〃	恩田 敬子 (〃)	〃
〃	垣尾 千秋 (〃)	〃
〃	柏尾 明美 (〃)	〃
看護士	柏原 幸治 (〃)	〃
看護婦	片山 恭子 (〃)	〃
〃	加藤 友紀 (〃)	〃
〃	金子 和子 (〃)	〃
〃	亀井 由美 (〃)	〃
〃	河合 美花 (〃)	〃
〃	神崎 秋子 (〃)	〃
〃	北川 紀子 (〃)	〃
〃	木下 恵子 (〃)	〃
〃	國井 伸子 (〃)	〃
〃	黒瀬 香織 (〃)	〃
〃	古賀 弘子 (〃)	〃
〃	児島 恵子 (〃)	〃
〃	小島 幸子 (〃)	〃
〃	小谷 恵巨 (〃)	〃
〃	菰田由佳子 (〃)	〃
〃	近藤美和子 (〃)	〃
〃	齊藤 理子 (〃)	〃
〃	坂元 一栄 (〃)	〃
〃	作野 泉 (〃)	〃
〃	櫻井 愛子 (〃)	〃
〃	櫻井かおり (〃)	〃
〃	佐々木由香 (〃)	〃
〃	澤田 真代 (〃)	〃
〃	紫垣 尚美 (〃)	〃
〃	式地 洋子 (〃)	〃
〃	柴田佐登子 (〃)	〃
〃	新郷真理子 (〃)	〃
〃	新原 晴美 (〃)	〃
〃	染谷 昭江 (〃)	〃
〃	田井中知子 (〃)	〃
〃	高下 宜子 (〃)	〃
〃	高比良保子 (〃)	〃
〃	高森由加子 (〃)	〃
〃	瀧 貴子 (〃)	〃

看護婦	滝田 博美 (病院看護部)	4. 1
〃	武田小津恵 (〃)	〃
〃	田尻 友紀 (〃)	〃
〃	蓼本 真弓 (〃)	〃
〃	田中由紀子 (〃)	〃
〃	種山 恵子 (〃)	〃
〃	田村知津子 (〃)	〃
〃	檀上 明美 (〃)	〃
〃	千葉 睦 (〃)	〃
〃	次田 幸恵 (〃)	〃
〃	津熊 純子 (〃)	〃
〃	津田 千秋 (〃)	〃
〃	恒川 良美 (〃)	〃
〃	徳田 和美 (〃)	〃
〃	中口 かよ (〃)	〃
〃	中橋 理佳 (〃)	〃
〃	中村めぐみ (〃)	〃
〃	中山 美鈴 (〃)	〃
〃	永田 美紀 (〃)	〃
〃	南條 浩美 (〃)	〃
〃	西河内智子 (〃)	〃
〃	西田佳代子 (〃)	〃
〃	橋本佳代子 (〃)	〃
〃	橋本 優子 (〃)	〃
〃	濱口あけみ (〃)	〃
〃	林 和美 (〃)	〃
〃	福島美智子 (〃)	〃
〃	福永 知子 (〃)	〃
〃	福場 駒子 (〃)	〃
〃	福山 和代 (〃)	〃
〃	藤野砂貴子 (〃)	〃
〃	藤本 和代 (〃)	〃
〃	藤本 景子 (〃)	〃
〃	古川 智子 (〃)	〃
〃	古川 知美 (〃)	〃
〃	前田 和子 (〃)	〃
〃	正清真千子 (〃)	〃
〃	松浦 久美 (〃)	〃
〃	松下 泰美 (〃)	〃
〃	松本万裕子 (〃)	〃

看護婦	三浦 香澄 (病院看護部)	4. 1	講 師	橋本 和明 (病理学 I)	3.31
〃	三浦 友子 (〃)	〃	〃	寛 紘一 (内科学 I)	〃
〃	三浦由美子 (〃)	〃	学内講師	名木田 章 (小児科学)	〃
〃	湊 ユリ江 (〃)	〃	〃	前田 裕子 (放射線医学)	〃
〃	三好 りか (〃)	〃	助 手	三好 和裕 (一般・消化器 外科学)	〃
〃	森本美智子 (〃)	〃	〃	徐 信夫 (皮膚科学)	〃
〃	柳田美佐代 (〃)	〃	〃	角 由紀子 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	柳原加代子 (〃)	〃	〃	金子 卓嗣 (産婦人科学)	〃
〃	矢野 真理 (〃)	〃	薬 剤 部 長	吉成 昌郎 (病院薬剤部)	〃
〃	山田 恭子 (〃)	〃	施 設 課 長	吉田 一男 (病院事務部 施 設 課)	〃
〃	山田 美江 (〃)	〃	技 師 長	北国 芳郎 (病理学 I)	〃
〃	山本いづみ (〃)	〃	技 術 主 任	豊田 住江 (病院麻酔科)	〃
〃	鎗山 夕子 (〃)	〃	事 務 員	中坪奈緒美 (病院事務部 医 事 課)	〃
〃	吉岡 奈美 (〃)	〃	技 術 員	田中 秀典 (病院放射線科)	〃
〃	吉田 康子 (〃)	〃	〃	塩崎眞利子 (病院輸血室)	〃
〃	吉富 恭子 (〃)	〃	〃	長嶺 英博 (病院リハビリ テ-ションセンター)	〃
〃	吉松 広美 (〃)	〃	〃	駒場 章一 (〃)	〃
〃	米倉 美穂 (〃)	〃	〃	太田 直子 (〃)	〃
看護事務員	尾崎 志保 (〃)	〃	技 能 員	兼森 直子 (総務部庶務課)	〃
〃	山崎 ルミ (〃)	〃	〃	石川 義男 (病院事務部 施 設 課)	〃
〃	四元 美幸 (〃)	〃	用 務 員	松坂 秀一 (病院事務部 管 理 課)	〃
助 手	田中 英高 (小児科学)	4.16	看 護 婦 長	水野 時子 (病院看護部)	〃
〃	福田 彰 (病 院)	〃	看 護 主 任	岸田 愛子 (〃)	〃
技 術 員	本田 裕子 (病院輸血室)	〃	〃	白石 清子 (〃)	〃
用 務 員	明石 豊次 (病院事務部 管 理 課)	〃	看 護 主 任 代 理	三浦 典子 (〃)	〃
看 護 婦	山本 朋子 (病院看護部)	5. 1	臨 床 指 導 者	中谷 美江 (〃)	〃
			〃	高見 恵理 (〃)	〃
			臨 床 指 導 者 代	有馬佐智子 (〃)	〃
			看 護 婦	吉田 紀子 (〃)	〃
			〃	熊野 伸子 (〃)	〃
			〃	能勢真優美 (〃)	〃
			〃	植田 靖子 (〃)	〃
			〃	桑畑真粧美 (〃)	〃
			〃	青木祐喜子 (〃)	〃
			〃	森 千代美 (〃)	〃
技 術 員	飛石 祐里 (病院輸血室)	2. 8			
助 手	前島 精治 (形成外科学)	2.28			
看 護 婦	金平 恭子 (病院看護部)	〃			
〃	津田由美子 (〃)	〃			
准看護婦	前田 厚子 (〃)	3.11			
用 務 員	塩見 美子 (病院事務部 用 務 課)	3.15			
教 授	河邊 六男 (物 理 学)	3.31			
〃	中田 勝次 (病理学 I)	〃			
〃	大柴 三郎 (内科学 II)	〃			
〃	武内 敦郎 (胸部外科学)	〃			
講 師	藤澤 良行 (英 語)	〃			

〔退 職〕

看護婦	杉井 早苗 (病院看護部)	3.31
"	林 美加子 (")	"
"	川端 敦子 (")	"
"	井上まゆみ (")	"
"	末永 照子 (")	"
"	高橋 文枝 (")	"
"	瀧 由子 (")	"
"	田平 千治 (")	"
"	中林 美子 (")	"
"	沼口 正美 (")	"
"	福蘭ますみ (")	"
"	長 佐與子 (")	"
"	田中 典子 (")	"
"	西村 仁三 (")	"
"	西村 眞三 (")	"
"	兵頭恵美子 (")	"
"	山本 千晶 (")	"
"	東 和美 (")	"
"	河口あずさ (")	"
"	田中真理子 (")	"
"	千代 香 (")	"
看護士	坪山 力 (")	"
看護婦	寺地加代子 (")	"
"	中西恵美子 (")	"
"	西山 千雅 (")	"
"	藤本 和歌 (")	"
"	今井真由美 (")	"
"	岡田まゆみ (")	"
"	高木 良子 (")	"
"	田中 綾 (")	"
"	松尾 美香 (")	"
"	植松 初美 (")	"
"	櫻本 尚子 (")	"
"	姜 真順 (")	"
"	大森 陽子 (")	"
准看護婦	永井 衣美 (")	"
看護事務員	山崎真由美 (")	"
"	楠 晶子 (")	"
看護補助員	小川タツエ (")	"
舎 監	川口 房二 (看護専門学校)	"

短時間 雇用職員	谷口 敦子 (病院中央検査部)	3.31
"	白岩 安子 (病院看護部)	"
"	山崎 勝枝 (")	"
助 手	砺波 博一 (泌尿器科学)	4.30
"	高橋 伸也 (")	"
看護婦	小谷 鏡子 (病院看護部)	"

〔昇格・異動〕

昇 格

医 化 学 助 教 授	林 秀行 (講 師)	2.16
病 理 学 I 教 授	芝山 雄老 (助 教 授)	4. 1
胸 部 外 科 学 教 授	佐々木進次郎 (")	"
内 科 II 診 療 教 授	陰山 克 (")	"
小 児 科 診 療 教 授	西村 忠史 (")	"
中央検査部 診 療 教 授	林 泰三 (病態検査学 助 教 授)	"
数 学 助 教 授	西村保一郎 (講 師)	"
病院薬剤部 薬 剂 部 長	古家 鞆弘 (業務管理課長)	"
病院薬剤部 薬 剂 部 長 代 理 兼 薬 剂 課 長	伊藤 博 (薬 剂 課 長)	"
病院事務部 栄 養 給 食 課 長	川浪 廣子 (課 長 代 理)	"
病院看護部 看 護 事 務 課 長	齐藤千鶴子 (課 長 補 佐)	"
総務部保安課 保 安 課 長 代 理	岩城 良治 (")	"
病院看護部 看 護 婦 長	北川 豊美 (婦 長 代 理)	"
"	秦 八重子 (")	"
"	森山寿迦子 (")	"
"	安原久仁子 (")	"
"	小野恵美子 (")	"
"	大川真紀子 (")	"
病院看護部 看 護 婦 主 任 代 理	広兼 静子 (看 護 婦)	"

病院看護部 臨床指導者	高木 裕美 (臨床指導者代理)	4. 1
〃	菊池 千春 (〃)	〃
〃	野口 智香 (〃)	〃
〃	上田 千鶴 (〃)	〃
〃	柴田さとみ (〃)	〃
〃	竹田 美和 (〃)	〃
〃	藤原 寛子 (〃)	〃
〃	山本 俊子 (〃)	〃

病院看護部 臨床指導者代理	川西いづみ (看護婦)	〃
〃	黒岩 真紀 (〃)	〃
〃	佐藤眞由美 (〃)	〃
〃	宗田真理子 (〃)	〃
〃	竹澤 美紀 (〃)	〃
〃	小倉真奈美 (〃)	〃
〃	高橋 知子 (〃)	〃
〃	山田由季子 (〃)	〃
〃	葛城 順子 (〃)	〃

中央手術部 技術主任代理	八尾 好純 (技術員)	〃
-----------------	-------------	---

内科学 I 講師	石原 正 (学内講師)	4.16
-------------	-------------	------

異 動

総務部庶務課 事務員	成迫 紀子 (病院輸血室 事務員)	4. 1
---------------	----------------------	------

看護専門学校 専任教員	浅野 民子 (病院看護部 臨床指導者)	〃
----------------	------------------------	---

内科学 I 助 手	馬嶋 素子 (病 院)	4.16
--------------	-------------	------

〔休職・復職〕

休 職

主 任	武田 澄子 (病院事務部 用 度 課)	3. 7
-----	------------------------	------

助 手	矢野 貴人 (医 化 学)	4. 1
-----	---------------	------

〃	山元 章示 (内 科 学 III)	〃
---	-------------------	---

看 護 婦	古川 智子 (病院看護部)	〃
-------	---------------	---

准看護婦	山下 智子 (〃)	〃
------	-------------	---

〃	熊田 真美 (〃)	〃
---	-------------	---

復 職

看 護 婦	須藤 葵 (病院看護部)	4. 1
-------	--------------	------

〃	安田 麻里 (〃)	〃
---	-------------	---

〃	和久利由美 (〃)	〃
---	-------------	---

〃	今村 知美 (〃)	〃
---	-------------	---

〃	稲田美穂子 (〃)	〃
---	-------------	---

〃	森元 由美 (〃)	〃
---	-------------	---

主 任	武田 澄子 (病院事務部 用 度 課)	4.13
-----	------------------------	------

〔委嘱・解嘱〕

委 嘱

平成6年度機器共同利用センター

運営委員会委員

教 授	鏡山 博行 (医 化 学)	2.16
-----	---------------	------

学内講師	上野 浩 (病理学 II)	〃
------	---------------	---

助 手	織田 行雄 (衛生学・ 公衆衛生学)	〃
-----	-----------------------	---

〃	野井 理 (耳鼻咽喉科学)	〃
---	---------------	---

附属看護専門学校長

教 授	小野村敏信 (整形外科学)	4. 1
-----	---------------	------

図書館長

教 授	藤本 守 (生理学 II)	4. 1
-----	---------------	------

附属病院長

教 授	美濃 眞 (小児科学)	4. 1
-----	-------------	------

附属病院副院長

教 授	堺 俊明 (神経精神医学)	4. 1
-----	---------------	------

医学情報処理センター副センター長

教 授	東 郁郎 (眼 科 学)	4. 1
-----	--------------	------

医学情報処理センター運営委員会委員

教 授	楢林 勇 (放射線医学)	4. 1
-----	--------------	------

倫理委員会委員

教 授	千原精志郎 (心 理 学)	4. 1
-----	---------------	------

〃	今井 雄介 (生理学 I)	〃
---	---------------	---

〃	森 浩志 (病理学 II)	〃
---	---------------	---

〃	溝井 泰彦 (法 医 学)	〃
---	---------------	---

〃	河村慧四郎 (内 科 学 III)	〃
---	-------------------	---

〃	堺 俊明 (神経精神医学)	〃
---	---------------	---

〃	高橋 宏明 (耳鼻咽喉科学)	〃
---	----------------	---

〃	平野 武 (龍谷大学教授)	〃
---	---------------	---

平成6年度同和教育推進委員会委員

教 授	千原精志郎(心理学)	4.1
〃	大槻 勝紀(解剖学Ⅰ)	〃
〃	清金 公裕(皮膚科学)	〃
助 教 授	赤尾 幸博(解剖学Ⅰ)	〃
〃	古川 哲夫(口腔外科学)	〃
講 師	小西 正良(解剖学Ⅱ)	〃
〃	後藤 俊幸(微生物学)	〃
助 手	清水 一弘(眼科学)	〃
〃	馬嶋 素子(病院)	〃
課 長	西田 伸忠(総務部教務課)	〃
課長代理	福島 猛(病院事務部 医事課)	〃

同上委員長

教 授	大槻 勝紀(解剖学Ⅰ)	4.20
-----	-------------	------

組換え DNA 実験安全委員会委員

教 授	岩崎 尚彦(生物学)	4.1
〃	鏡山 博行(医化学)	〃
〃	中井 益代(微生物学)	〃
〃	吉田 康久(衛生学・ 公衆衛生学)	〃
〃	大澤 仲昭(内科学Ⅰ)	〃
〃	堺 俊明(神経精神医学)	〃
〃	山元 孝吉(元生物学教授)	〃

同上委員会委員長

教 授	中井 益代(微生物学)	4.8
-----	-------------	-----

同上委員会副委員長

教 授	岩崎 尚彦(生物学)	4.8
-----	------------	-----

同上委員会 DNA 安全管理医

教 授	大澤 仲昭(内科学Ⅰ)	4.8
-----	-------------	-----

同上委員会安全主任者

教 授	鏡山 博行(医化学)	4.8
-----	------------	-----

学内講師

助 手	岡崎 芳次(生物学)	4.1
〃	伊藤 裕子(解剖学Ⅰ)	〃
〃	石井 権二(薬理学)	〃
〃	上野 浩(病理学Ⅱ)	〃
〃	澤田 健(〃)	〃
〃	高淵 雅廣(機器共同利用 センター)	〃
〃	石原 正(内科学Ⅰ)	〃

助 手	北岡 治子(内科学Ⅰ)	4.1
〃	浅田 修二(内科学Ⅱ)	〃
〃	多田 秀樹(〃)	〃
〃	三好 博文(〃)	〃
〃	諏訪 道博(内科学Ⅲ)	〃
〃	玉井 浩(小児科学)	〃
〃	森田 真照(一般・消化器 外科学)	〃
〃	森本 昌宏(麻醉科学)	〃
〃	土居 宗算(整形外科学)	〃
〃	徳岡 覚(眼科学)	〃
〃	濱田 潤(〃)	〃
〃	寺井 陽彦(口腔外科学)	〃
〃	畑中 道代(病態検査学)	〃
〃	島田 恭光(リハビリテーション センター)	〃

平成6年度図書館運営委員会委員

教 授	千原精志郎(心理学)	4.1
〃	藤本 守(生理学Ⅱ)	〃
〃	宮崎 瑞夫(薬理学)	〃
〃	芝山 雄老(病理学Ⅰ)	〃
〃	河村慧四郎(内科学Ⅲ)	〃
〃	榎林 勇(放射線医学)	〃
〃	田嶋 定夫(形成外科学)	〃
診療教授	陰山 克(内科学Ⅱ)	〃
助 教 授	佐野 浩一(微生物学)	〃
〃	河野 公一(衛生学・ 公衆衛生学)	〃
〃	植木 實(産婦人科学)	〃
課長補佐	茂幾 周治(図書館)	〃
主 任	高橋美知代(〃)	〃

学内講師

助 手	篠田 恵一(内科学Ⅰ)	4.16
-----	-------------	------

主任健康管理医兼主任衛生管理者

講 師	石原 正(内科学Ⅰ)	4.16
-----	------------	------

健康管理医兼衛生管理者

助 手	馬嶋 素子(内科学Ⅰ)	4.16
-----	-------------	------

盛学術振興基金運営委員

理 事	美濃 眞(小児科学)	4.26
-----	------------	------

教 授	岡島 邦雄(一般・消化器 外科学)	〃
-----	----------------------	---

解 嘱

附属看護専門学校長

教 授 武内 敦郎 (胸部外科学) 3.31

図書館長

教 授 藤本 守 (生理学Ⅱ) 3.31

附属病院長

教 授 岡島 邦雄 (一般・消化器
外科学) 3.31

附属病院副院長

教 授 堺 俊明 (神経精神医学) 3.31

盛学術振興基金運営委員

理 事 岡島 邦雄 (一般・消化器
外科学) 3.31

健康管理医兼衛生管理者

学内講師 北岡 治子 (内科学Ⅰ) 4.15

〔海外渡航〕

出張

木下 光雄 (整形外科学講師)

アメリカ (ヒューストン) 2.17～3.20

相馬 義郎 (生理学Ⅰ助手)

アメリカ (ニューオーリンズ) 3.4～3.19

弘田 雄三 (内科学Ⅲ講師)

アメリカ 3.12～3.20

宮崎 瑞夫 (薬理学教授) 3.17～3.30

奥西 秀樹 (〃 助教授) 〃～〃

宋 景富 (〃 講師) 〃～3.26

オーストラリア (メルボルン)

今井 雄介 (生理学Ⅰ教授)

中国 (杭州) 4.3～4.11

宮崎 瑞夫 (薬理学教授)

中国 (上海) 4.5～4.8

美濃 眞 (小児科学教授)

川村 尚久 (〃 助手)

中国 (桂林) 4.5～4.9

永田 裕人 (小児科学助手)

アメリカ (ハワイ) 4.16～4.23

小野村 敏信 (整形外科学教授)

アメリカ (ハワイ) 4.19～4.24

小野村 敏信 (整形外科学教授)

台湾 (台北) 4.27～5.1

楢林 勇 (放射線医学教授)

平石久美子 (〃 助手)

中国 (鷹潭市) 5.7～5.14



教 室 紹 介

法 医 学 教 室

—女性ふえ、若く活気—

広がる領域、司法解剖

本学法医学教室は、昭和33年に独立した講座として開設された。

初代は大村得三教授（昭和35年～45年）で、現学長の松本秀雄教授（昭和48年～平成元年）を経て、平成元年より溝井泰彦教授に引き継がれている。大村教授の時代より、大阪府北部の市や町を管轄する警察署の変死体の法医解剖を行っており、平成3年3月1日から、大阪大学の移転に伴って大阪府下5大学の担当地域の再編成があり、高槻、茨木、摂津、豊能、箕面、池田、枚岡、河内、布施、枚方、寝屋川、四条畷の12署管轄地域の担当となった。その結果、解剖数は倍増し、平成5年は司法解剖106体を含めて計127体の検案解剖を行った。

現在のスタッフは、溝井泰彦教授を中心に、助教授に鈴木広一、助手に宮崎時子、田村明敬、藤田清司の3名、大学院生に内田敦子と辻洋子の2名、技師長に松井清司、技術員に岩田美佐、事務員に井口彰子、用務員に三笠昭三の計11名である。スタッフのほぼ半数が女性という、時代の先端をいく構成となっている。

研究面では、大村得三教授のもとで松本秀雄現学長が遺伝的多型形質の研究を開始して以来、現在も継続しており、溝井泰彦教授を迎えて、アルコール代謝酵素の遺伝学的研究、日本の死因調査における問題点に関する研究等、領域を

広げている。多型形質の研究についてはDNAレベルでの分析を中心に行っており、アルコール代謝の個体差や人種差に関わっている酵素の遺伝子型の検出を内田、鈴木が、司法事件における個人の特定や民事上の親子関係の鑑定に大きな力を発揮する反復配列の多型を田村が研究している。また、松本学長が精力的に進めてきた免疫グロブリンアロタイプの研究は、血清学的には宮崎が、DNAでは藤田が継続して行っている。その他、鈴木は前助教授の伊東（現化学教室助教授）とともに、多型を示すタンパク



質の塩基置換を解析し、成果をあげている。

教育面では、4年次に実施されている基礎配属実習で兵庫県の監察医事務所への出張実習が学生の人気が高く、6—7月は学生たちで教室はにぎわっている。それぞれの学年の気質によっても違うが、基礎配属後も教室に出入りして解剖の手伝いをする学生もいる。残念ながら、これらの学生の中で卒後に教室の門をたたいた学生は本学の卒業生にはまだいないが、優秀な人材を発掘していくことも使命と考えており、基礎配属実習に力をいれている。

ここ数年、大阪府下で変死体の発生数は増加

の傾向にあり、本学の取り扱い解剖体数も増加している。平成6年は、現時点で教室始まって以来のハイペースで解剖が行われており、4カ月間ですでに55件を数え、外因死ばかりでなく内因死の症例も増えている。平成4、6年度には、将来のケイ・スカーペッタ（パトリシア・コーンウェル著「検死官」に登場する女性監察医）を目指す大学院生がひとりずつ入局し、教室スタッフの平均年齢が久しぶりに若返った。

平成6年度入学試験及び国家試験状況

平成6年度入学試験状況

		志願者数	受験者数	入学者数
医学部 医学科		人 1,209	人 1,089	人 103
大学院医学研究科		27	27	25
看護専門 学 校	第一看護 学 科	333	304	55
	第二看護 学 科	141	134	44

医師国家試験状況

第88回医師国家試験

		新 卒	既 卒
受 験 者 数	104名	94名	10名
合 格 者 数	95名	87名	8名
合 格 率	91.3%	92.6%	80%

(全国平均 86.2%、私立医大平均 83.5%)

看護婦国家試験状況

受験者数

第一看護学科 44名

第二看護学科 47名

合格者数 全員合格

平成6年度 主なる事業計画

平成6年度主なる事業は、次の通りである。

A) 大学施設増改築第二期工事（本部・図書館棟）

1. 本部・図書館棟建築工事
2. 本部・図書館棟工事竣工後整備計画
 - イ) 本部・図書館棟備品、什器等整備費
 - ロ) 図書館他移転関係費
 - ハ) 図書館図書紛失予防システム他機器整備費
 - ニ) 蔵書データー入力費
 - ホ) 本部・図書館棟電話設備整備費
 - ヘ) 建物周辺外構工事他整備費

B) 研究診療設備拡充計画

1. 生体内代謝、動態並びに機能解析装置 1式
2. 高速生体反応光解析システム 1式
3. 化学自動分析装置 1式
4. 放射線情報管理システム 1式
5. ジェット洗浄機（工事費含む） 1式

C) 教育実習用機器整備計画

D) 施設改修整備計画

1. 附属病院中央監視盤改修工事
2. 附属病院ターボ冷凍機改修工事

学 位 記 授 与

平成 6 年 3 月 23 日

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第467号	川 西 昌 浩	Simulation Study on Therapeutic Vertebral Artery Occlusion for VA-PICA Giant Aneurysm (椎骨動脈巨大動脈瘤に対する親動脈閉塞術の流体モデル解析)
甲第468号	塩 田 直 孝	Increase of Angiotensin Converting Enzyme Gene Expression in the Hypertensive Aorta (高血圧性大動脈におけるアンジオテンシン変換酵素の遺伝子発現の増加)
甲第469号	貞 岡 達 也	睡眠時呼吸障害の昼間検査に関する研究 —終夜睡眠ポリグラフ検査と昼間薬物睡眠ポリグラフ検査の比較検討—
甲第470号	疋 田 米 造	Terminal cardioplegia 法の効果に関する実験的ならびに臨床的研究 —特に至適温度と細胞内電解質環境について—
甲第471号	濱 本 浩	特発性側弯症における初産（初潮）及び成長と側弯進行との関係
甲第472号	岩 橋 栄	体外受精・胚移植における卵巢過剰刺激に伴うプロラクチンの動態、およびその他の内分泌機能に及ぼす影響に関する検討
甲第473号	森 田 雅 文	家兔摘出心の灌流時における Ryanodine および Nicardipine の心筋保護作用 —とくに Ryanodine の筋小胞体 Ca チャネル阻害効果について—
甲第474号	平 石 久美子	Application of ^{31}P -MRS to the differential diagnosis of hepatic disease (肝疾患の鑑別診断への ^{31}P -MRS の適応について)
甲第475号	藤 井 省 吾	ヒト脳腫瘍における c-erbB-2 遺伝子産物および epidermal growth factor receptor の免疫組織化学的検索 —特に astrocytoma 系腫瘍についての検討—
甲第476号	金 明 博	遺伝的胸椎前弯・前側弯ウサギ (Lordoscoliotic Rabbit) における脊柱変形のX線学的、組織学的検討
甲第477号	芦 田 明	cDNA CLONING, EXPRESSION IN ESCHERICHIA COLI AND PURIFICATION OF HUMAN 6-PYRUVOYL-TETRAHYDROPTERIN SYNTHASE (ヒト6-ピルボイルテトラヒドロプテリン合成酵素の cDNA クローニング、大腸菌内での発現およびその発現蛋白の精製)
甲第478号	岩 崎 正 洋	Protonation State of the Active-Site Schiff Base of Aromatic Amino Acid Aminotransferase : Modulation by Binding of Ligands and Implications for its Role in Catalysis (芳香族アミノ酸アミノ基転移酵素の活性部位 Schiff 塩基のプロトン化状態 : リガンド結合による調整と触媒機構におけるその役割)
甲第479号	東 真一郎	Neuroendocrine studies in dementia patients : responses of plasma GH and PRL following bromocriptine administration (痴呆患者における神経内分泌学的研究 —プロモクリプチン負荷後の血漿 GH と PRL の反応—)
甲第480号	森 禎 章	オポッサム腎培養細胞における容積依存性電流の解析

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第605号	原 均	肝硬変 rat における阻血を加えた肝切除後の肝細胞障害と肝再生に関する研究
乙第606号	斎 藤 浩	Hypotensive action of a selective renin inhibitor, KRI-1314, on Goldblatt hypertensive marmosets (Goldblatt 型高血圧マーモセットにおける選択的レニン阻害薬 KRI-1314 の降圧作用)
乙第607号	安 藤 三 男	各種肝疾患における肝組織中のビタミンE状態
乙第608号	垣 内 成 泰	肺癌患者における術前・術後慢性期の右心機能の推移 —特に右房ペースングによる段階的心拍数増加による右室駆出率について—
乙第609号	吉 積 宗 範	実験大腸炎における免疫学的研究 : Ia 抗原の発現を中心に
乙第610号	梅 垣 英 次	Prostaglandin の胃 cytoprotection 作用に関する実験的研究 —胃粘膜傷害修復における胃粘液および細胞増殖能の役割—
乙第611号	小 林 正 直	阻血を加えた肝切除時の肝耐性に関する実験的研究 —とくに反復阻血法の肝保護効果について—
乙第612号	小 玉 敏 宏	心エコー法による永久ペースメーカー植込み患者の心収縮拡張動態の検討 —特に生理的ペースングの有用性について—
乙第613号	福 岡 栄 介	Bradykinin とその分解物の同時測定法の確立と血漿中分解過程の種多様性について
乙第614号	長 井 曜 子	A clinico-genetic study of neurosis with obsessive-compulsive or phobic symptoms in childhood and adolescence (児童・思春期における強迫神経症・恐怖症の臨床遺伝的研究)
乙第615号	西 本 泰 久	ペースメーカー植え込み症例の長期予後に及ぼす生理的ペースングの影響
乙第616号	西 原 徳 文	USE IN VIVO WHOLE-BODY AUTORADIOGRAPHY TO IDENTIFY THE DISTRIBUTION OF EPIDERMAL GROWTH FACTOR BINDING SITE UNDER NORMAL CONDITIONS IN THE MOUSE DIGESTIVE SYSTEMS (全身オートラジオグラフィによる正常マウス消化器系における上皮成長因子の結合部位の分布についての研究)
乙第617号	橋 村 直 隆	ラットにおけるエチオニン腓障害後の修復機構に対する経口トリプシン・インヒビターの効果 —CCK 受容体阻害剤を用いての病理組織学的および免疫組織化学的検討—
乙第618号	安 達 岳 似	実験腓炎に対する Trypsin inhibitor (Camostat mesilate) 経口投与の治療効果に関する研究
乙第619号	藤 井 富美子	マクロファージの Candida albicans 貧食に及ぼす低用量アムフォテリシンBの作用の形態学的検討
乙第620号	前 村 憲太朗	Poly-N-acetyllactosamiol O-Glycans Attached to Leukosialin —The Preseance of Sialy Le ^x Structures in O-Glycans (ロイコシリン付着のポリラクトサミンを持つ O-グリカン —O-グリカンにおけるシアリル Le ^x 抗原基の存在—)

平成6年度・収支予算

資金収支予算

(単位：千円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成6年度 予算額	平成5年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成6年度 予算額	平成5年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,399,004	2,379,098	19,906	人件費支出	11,153,960	10,656,222	497,738
手数料収入	58,073	67,275	△ 9,202	教育研究経費支出	10,804,058	10,453,998	350,060
医療収入	19,304,189	18,743,083	561,106	管理経費支出	941,197	873,563	67,634
寄付金収入	200,000	180,000	20,000	借入金等利息支出	173,743	188,025	△ 14,282
補助金収入	2,041,889	1,626,018	415,871	借入金等返済支出	1,383,276	1,293,923	89,353
資産運用収入	470,323	572,095	△ 101,772	施設関係支出	1,330,068	2,062,655	△ 732,587
資産売却収入	0	0	0	設備関係支出	1,334,276	829,427	504,849
事業収入	302,555	215,462	87,093	資産運用支出	250,870	288,559	△ 37,689
雑収入	256,059	191,044	65,015	その他の支出	2,586,132	2,750,957	△ 164,825
借入金等収入	1,220,000	1,639,600	△ 419,600	予備費	300,000	300,000	0
前受金収入	1,250,675	1,287,280	△ 36,605	資金支出調整勘定	△ 2,483,201	△ 2,520,413	37,212
その他収入	4,109,379	4,211,265	△ 101,886	次年度繰越支払資金	4,624,889	4,913,868	△ 288,979
資金収入調整勘定	△ 4,777,635	△ 4,620,200	△ 157,435				
前年度繰越支払資金	5,564,757	5,598,764	△ 34,007				
収入の部合計	32,399,268	32,090,784	308,484	支出の部合計	32,399,268	32,090,784	308,484

消費収支予算

(単位：千円)

消 費 収 入 の 部				消 費 支 出 の 部			
科 目	平成6年度 予算額	平成5年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成6年度 予算額	平成5年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金	2,399,004	2,379,098	19,906	人件費	11,482,074	10,925,642	556,432
手数料	58,073	67,275	△ 9,202	教育研究経費	12,063,984	11,630,851	433,133
医療収入	19,304,189	18,743,083	561,106	管理経費	1,025,139	947,472	77,667
寄付金	232,600	237,900	△ 5,300	借入金等利息	173,743	188,025	△ 14,282
補助金	2,041,889	1,626,018	415,871	資産処分差額	18,304	7,850	10,454
資産運用収入	470,323	572,095	△ 101,772	徴収不能額	3,500	3,000	500
事業収入	302,555	215,462	87,093	予備費	300,000	300,000	0
雑収入	256,059	191,044	65,015	消費支出の部合計	25,066,744	24,002,840	1,063,904
帰属収入合計	25,064,692	24,031,975	1,032,717				
基本金組入額合計	△ 2,770,454	△ 2,654,985	△ 115,469				
消費収入の部合計	22,294,238	21,376,990	917,248	当年度消費支出超過額	2,772,506	2,625,850	

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支予算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されるのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

平成6年度収支予算について

平成6年度収支予算は、予算編成方針に基づいて昨年来、編成作業が進められていましたが、法人評議員会の審議など所定の手続きを経て3月31日開催の理事会において承認され成立しました。

予算の内容

学校法人会計基準に基づく収支予算には、資金収支予算と消費収支予算とがあります。前者は、教育研究の諸活動にかかるすべての収支及び支出の内容を明らかにするもので、後者は、企業会計の損益計算の仕組みを援用し、消費支出（費用）と消費収入（収入）の均衡の状態を明らかにするものです。

以下、消費収支予算について述べます。

主な収入の状況

『学生生徒等納付金』は、23億9900万円であり帰属収入の構成比率は9.5%と逡減傾向にあります。

『補助金』は、20億4188万円。前年度予算の25.5%増を計上しております。私立大学経常費補助金、施設設備費補助金、研究設備整備費補助金、臨床研修費補助金等国庫補助金総額20億392万円及び地方公共団体補助金3796万円を見込んでいます。『資産運用収入』は、4億7032万円で金利の低下に伴い前年度予算比1億177万円の減収（-21.6%）としています。

『医療収入』は、本年度の診療報酬の改定と若干の患者増及び、病床の効率的運用などにより、対前年度予算額比5億6110万円の増収を見込んでいます。

主な支出の状況

『人件費』は、114億8207万円。前年度予算の5.0%増を計上、帰属収入に占める人件費の割合は、45.8%であり前年度とほぼ同率であります。

『教育研究経費』は、120億6398万円で大学学部・大学院・看護専門学校における教育研究活動の全般にわたる必要経費ですが、対前年度比3.7%増。医療材料費は医療収入（診療収入分）予算の42.5%を計上しています。

『管理経費』は、10億2513万円で新規経費として立体駐車場の不動産取得税、固定資産税、消費税等の公租公課の増額がありません。

資金収支予算

『施設関係支出』では、本部・図書館棟建築工事費、同建物周辺整備費等を計上しています。

『設備関係支出』では、研究装置、医療用中央機器、本部・図書館棟備品、図書費等総額で13億3427万円となり対前年度比60.8%の増額予算となっています。

収支（消費収支予算）の均衡状況

6年度の帰属収入は総額で250億6469万円（前年度比4.3%増）の予算額ですが、一方消費支出は殆ど同額の250億6674万円（4.4%）となり、収入全額を人件費諸経費・支払利息で消費することとなり施設、設備、長期借入金返済等の支出額である基本金組入額（27億7045万円）に等しい額が、消費支出超過額（赤字）となり極めて厳しい状況にあります。

今後とも教育・研究の環境整備等資金需要

は増大していくものと思われ、財政基盤の安定化の為、なお一層の効率的予算管理を必要とすると思われます。

(財務部長 池田良正)

注：『帰属収入』とは学校法人の負債とならない収入。

『消費収入』とは、学校法人が消費する資産または用役の金額。

『基本金組入額』とは、教育研究活動を行う上で必要な資産を自己資金で取得した額を帰属収入のうちから組み入れる金額

晴れの卒業式

平成5年度卒業式

1) 医学部医学科

3月25日(金)午後2時より95名

於 大学臨床第一講堂

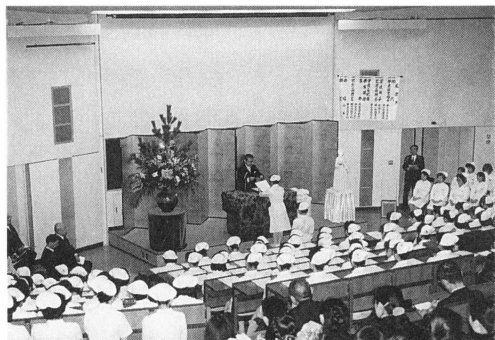
2) 看護専門学校

3月11日(金)午後2時より

於 大学臨床第一講堂

第一看護学科(9回生)44名

第二看護学科(25回生)46名



厳しい学業をクリアー 誇り胸に看護の道へ

卒業生代表が答辞

私たち44名は本日、晴れて卒業式を迎えることができ、感激で胸いっぱいです。家を離れて初の寮生活、両手に抱え切れなほど重く大量の教科書を手にし、看護婦への道のりの長さ不安いっぱいだった入学のときから3年、数々の楽しかったこと、辛かったこと、多くの思い出を胸に、いま懐かしい母校を去り専門職業人として巣立って行こうとしています。

この3年の歳月は、それまでの生活と比較にならない多くの困難にぶつかり、打ちのめされそして、それ以上に多くのことを学ぶことができ、自分自身を一人の人間として成長させるかけがえのない日々でもありました。看護という専門分野に目を向けるだけでなく、自分自身をふり返り、人としてどうあるべきかを改めて気づき始めています。

当初、初めて経験する90分間の長い講義、聞いたこともない専門用語に戸惑った学校生活、そんな時、5月のナイチンゲール生誕祭で実際の患者さんに出会い、ただ憧れだった白衣の天使が、人と関わる看護者であるという意識が生まれ、夢が具体的目標へと変化し始めました。実際の看護技術を学び、待ちに待った11月の戴帽式でナースキャップを頂いた感動、わずか50グラムのキャップを重く大きく感じたことは生涯忘れられません。

2年生の実習では、習い覚えたはずの知識も技術も発揮できぬばかりか、「あなたたちに私の痛みなんか分からないわ」と患者さんにいわれた時の悔しさや無力感。3年生の看護研究の

ときはプレッシャーと苦しさ。ともすれば自分を見失い勝ちのそんな時、悩みをいやして下さった臨床・教務の先生方、グループメンバー。そして何にも替え難い大きな励みは、未熟な私たちを待っていて下さる患者さんの笑顔でした。そんな多くの支えによって私たちは、自分を見つめ直し、相手の立場に立つ看護師として成長することができました。

自己表現の難しさに徹夜までした論文作成も先生方のご指導と級友の励まし合いで、44名全員が無事完成させ、発表をすませた時は、充実感で思わず涙があふれました。そしてつい先日、学生生活最終の目標である国家試験に臨み、この日のために勉強したお陰で、全力投球することができました。

厳しく辛かった中にも、教育キャンプ、クリスマス会、北陸への研修旅行など楽しいことも幾つかあり、クラスメイトの絆は深まっています。卒業後はそれぞれの進路に分かれますが、私は大阪医科大学附属看護専門学校の卒業生の名を誇りとして看護への道を自分の足でしっかり歩いてゆきたいと思います。

最後に私たちを快く受け入れて下さった患者さん、温かいご支援を賜った先生方、舎監さん、寮母さん、友人たち、そして愛情をもって支えてくれた両親に感謝の気持ちを捧げたいと思います。

平成6年3月11日

第一看護学科第九回卒業生総代 池田美香



海外出張記

テキサス州立大学医学部 ガルベストン校への長期出張

第3内科学教室助手

山元章示

種々の共同研究に従事 忙しくも楽しく努力

米国テキサス州ガルベストン市はヒューストン港がメキシコ湾に開く地点に位置し、4月に入ると既に初夏の趣に覆われます。テキサス州立大学本校の医学部がここガルベストン市に開校されて、ほぼ100年が経過します。Thomas N. James 先生が1987年にアラバマ州立大学か

写真はテキサス州立大学医学部ガルベストン校の全景を上空から撮影したものです。



ら医学部学長に着任されて以来、James 先生専属の循環器部門研究室、内科学教室、病理学教室と大阪医科大学第3内科教授河村慧四郎先生との間で種々の共同研究が行われています。河村慧四郎先生と James 先生の共同研究の歴

史はアラバマ州立大学を含めて長期にわたり、これまで第3内科からは今村喜久子先生を始め、寺崎文生、林 哲也の先生がたが米国での研究に従事しています。

循環器部門研究室は同時に世界保健機構心臓血管センターとしての役割も果たし、またJames先生はヒューストンにあるNASAスペースセンターの研究部門にも協力され、ひろく国際間で、諸種施設間の共同研究を積極的に進められています。来日、来阪の機会も多く、大阪医科大学を訪問され松本秀雄学長と面談の機会も持たれています。

共同研究の課題は主にヒト心臓の病理形態学的研究で、刺激伝導系を始め一般作業心筋を対象とし、光顕、免疫組織化学、透過および走査電顕等を用いた検索を行っています。また刺激伝導系に関しては、さらに電気生理学的検索をめざし、諸種哺乳動物の心臓を対象とする比較研究を行っています。

今回私は教室からの指示で、平成5年6月かよりガルベストーンに長期出張を命じられ、共同研究を含めたいくつかの課題に従事致しております。テキサス州立大学のキャンパスも他大学

同様ますます国際化し、日本を含めた他国籍の研究者の皆さんと接する機会も多く、忙しいながらも楽しく仕事をしています。出張中は教室内外の教職員の皆さんには様ざまの御迷惑をお掛けすることになりますが、医大研究の発展に少しでもお役にたてるよう努力するよう心掛けております。平成6年4月6日

お詫びと訂正

前回発行の第19号に一部脱落がありましたので、ここにお詫びし、訂正いたします。

P11 右側中央写真下に、

「がい船着き場を備えている。つまり運河側が正」が脱落しておりました。



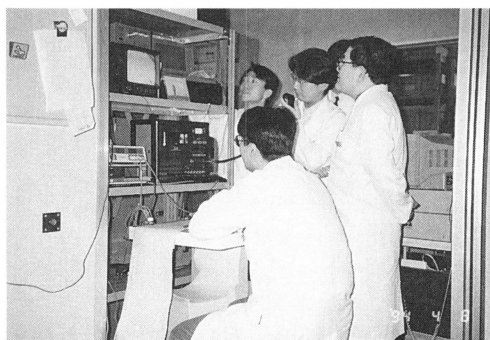
医学の散歩道

— 睡眠と薬 —

神経精神医学教室講師

黒田健治

「こんな夢を見た…」という書き出しで十の夢を語る夏目漱石の小品「夢十夜」は、夢内容を描いた作品の白眉とされている。この夢作品が本当に漱石が見た夢なのか、それとも全くの



創作なのかは疑問の残るところであるが、夢あるいは睡眠という現象は科学的な方面からも大変興味深く、睡眠に関わる問題は人間にとって大変重大なのである。

我々をとりまく現代社会は、高度情報化時代、ハイテク時代と呼ばれる忙しい文明社会であり、人は睡眠を犠牲にして活動し生産性を高める努力がなされた。しかし睡眠を軽視し圧迫したつげは文明社会を覆うさまざまな睡眠障害や頻発する事故として、深刻に反映されてしまうようになった。もし人間が睡眠を必要としないならば、我々は人生の3分の1を無駄に過ごしていることになる。しかし、最近アメリカの研究者達がネズミを使っておこなった実験から、睡眠は生命維持に必要不可欠であるという結論が確認された。ヒトでは睡眠を奪うといった断眠実験から長期にわたる睡眠不足によって最も悪影響を受けるのは精神機能であることが繰り返し示された。すなわち、睡眠は脳にとって必要不可欠であることがわかった。ところが、世の中にはあまり眠らないで元気に活躍する人が実在する。ナポレオンやエジソンは毎夜3時間や4時間しか眠らなかったそうである。レオナルドダビッチは4時間毎に15分だけ寝て、1日を6分割して生活したという。反対にアインシュタインの様に1日に10時間以上も眠っていた人もいる。しかしいずれにしてもまったく睡眠なしに生活しているわけではなく、睡眠が長いか短いだけの差なのである。

睡眠にはノンレム睡眠とレム睡眠という2つの異なる状態がある。一般的にはレム睡眠では頭のほうは夢を見ているのに、からだのほうは筋が弛緩しているから「体の眠り」といわれ、ノンレム睡眠は脳波の徐波化を示すことから

「頭の眠り」といわれたりもするが、単純に睡眠をこのように二分化することは少々無理がある。しかし、夢に関する科学的な研究は、1953年にアセリンスキーとクライトマンがレム期において夢を見るという報告から活発におなわれた。ノンレム期とレム期では明らかに夢の想起率に違いがあり、レム期の夢は vivid なものであると言われている。また夢は人間の無意識を現すといわれたりし、夢を精神分析的な治療に用いたりしている。漱石の「夢十夜」の中に描かれている夢も、十夜のうち九夜は色彩豊かな夢が描かれているが、果たしてそれは漱石がレム睡眠期に見た夢であったのか、それとも幻覚であったのか、睡眠の科学的な方面から眺めてみるのも興味があるところである。



主要会議とその主な議題

平成6年2月1日より平成6年5月10日までの主要な会議とその主な議題は次の通りです。

理事会

(2月8日)

1. 寄附行為変更に関する件
2. 生駒総合病院に関する件
3. 看護専門学校長任命の件

(3月15日)

1. 寄附行為変更に関する件
2. 生駒総合病院に関する件
3. 就業規則中一部改正の件
4. 給与規則中一部改正の件
5. 旅費支給規程中一部改正の件

(3月31日)

1. 寄附行為変更に関する件
2. 平成6年度予算承認の件
3. 附属病院長委嘱の件
4. 理事一部選任の件
5. 給与規則中一部改正の件
6. 住宅手当支給規程中一部改正の件
7. 平成6年度主なる事業計画
8. 平成6年度定員の件
9. 平成5年度資金収支決算見込報告

理事懇談会

(4月26日)

1. 学納金に関する件

評議員会

(2月8日)

1. 寄附行為変更に関する件

(3月28日)

1. 平成6年度予算に関する件
2. 平成6年度主なる事業計画
3. 平成5年度資金収支決算見込報告

教授会

(2月2日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 教授選考に関する件
(病理学第一講座、内科学第二講座、胸部外科学講座)
3. 図書館長選出に関する件
4. 第6学年後期試験成績判定に関する件
5. 本学附属病院人工腎臓センター規程(案)に関する件

(2月16日)

1. 人事に関する件(助教授の任用)
2. 教授選考に関する件
(病理学第一講座、内科学第二講座)
3. 卒業合否判定に関する件
4. 入試制度審議会委員の改選に関する件
5. 倫理委員会委員の改選に関する件
6. 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について

(3月1日)

1. 平成6年度入学試験に関する件
2. 図書館長選挙に関する件

(3月9日)

1. 平成6年度入学試験に関する件
2. 名誉教授称号授与に関する件
3. 診療教授の選考に関する件
(第二内科診療教授、小児科診療教授、中央検査部診療教授)
4. 教授選考に関する件
(病理学第一講座、内科学第二講座、胸部外科学講座)
5. 附属病院長選挙に関する件
6. 人事に関する件(非常勤講師の任用)
7. 医学情報処理センター運営委員会委員及び副センター長の変更について

(3月23日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)
2. 附属病院長選挙に関する件
3. 診療教授の選考に関する件
(第二内科診療教授、小児科診療教授、中央検査部診療教授)
4. 同和教育推進委員会委員の改選に関する件
5. 組替えDNA実験に関する安全委員会委

員の改選に関する件

(4月8日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)
2. 平成6年度入学者決定に関する件
3. 学生の休学願出に関する件
4. 平成7年度入試に関する委員会委員の選出に関する件

(4月20日)

1. 人事に関する件(附属病院副院長の推薦)
2. 図書館運営委員会委員の委嘱に関する件
3. 物理学担当教授選考の諸問題に関する検討会の答申について
4. 組替えDNA実験に関する安全委員会委員長及び副院長の委嘱について
5. 同和教育推進委員会委員長の委嘱について

大学院医学研究科委員会

(2月16日)

1. 学位論文受理に関する件
2. 大学院生の学外研修期間延長願出に関する件

(3月1日)

1. 平成6年度大学院入学試験に関する件

(3月23日)

1. 学位論文審査結果に基づく合否決定に関する件
2. 語学試験委員の改選に関する件
3. 研究生の願出に関する件

(4月8日)

1. 平成6年度大学院入学者決定に関する件
2. 大学院生の退学願出に関する件
3. 研究生の願出に関する件

(4月20日)

1. 大学院生の退学願出に関する件
2. 大学院生の学外研修願出に関する件

主な行事日程(5月11日～6月30日)

5月10日から6月30日までに行われる学内における主要な予定は次の通りです。

5月11日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

14日(土) 学位論文受付締切

18日(水) さつき会(生前献体登録者懇親会)

25日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

28日(土) 理事会

31日(火) 評議員会

6月1日(水) 本学創立記念日

2日(木) 平成6年度永年勤続者の表彰式

4日(土) 新入生歓迎会

6月8日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

13日(月) 学位論文提出のための語学試験

15日(水) 本学春季医学会総会及び学術講演会

22日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

29日(水) 献体者に対する文部大臣からの感謝状の贈呈ご遺骨返納式

科学技術分野の励みに

ビッグプライス 日本国際賞

科学技術振興にかかわる幾多の報奨制度の一つに、国際科学技術財団（伊藤正己理事長）が主催する「日本国際賞」（JAPAN PRIZE）がある。この賞の対象者は、科学技術の分野において独創的、飛躍的成果をあげ人類の平和と繁栄に貢献したと認められる人に、国籍、職業、人類、性別を問わず、原則として毎年二人に授与される。賞状、賞碑および賞金五千万円（一分野に対し）というビッグプライズである。

国際科学技術財団は 1983 年（昭和 58 年）内閣総理大臣（総理府本府、科学技術庁）外務・文部大臣が所管する公益法人として発足。

1985 年に第一回授賞を行って以来、毎年 12 月に受賞者を決定し、翌年 4 月の授賞式典には天皇・皇后両陛下をはじめ内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官、各国大使、著名政・財界人数百人が参列して行われている。

財団には各界の有識者による「理事会」、諮問機関として「評議員会」、授賞者選考のための「審査委員会」、授賞対象分野決定のための「分野検討委員会」等が設けられ、真に客観的な審査と公正な授賞を旨としている。本学からも審査委員として堺 俊明教授（神経精神医学）が名を連ねている。同賞をやがてはノーベル賞に匹敵するものにすることが同財団の目標であり、今後斯界関係者の励みになることを念願している。

☆大阪医大俳句会☆

昭和63年2月1日に教養部会議室で発足した大阪医大俳句会を紹介します。主宰は仏のツーさんこと、塚本 務先生です。俳号は務人さんで俳句歴は学生時分から、京鹿子の同人であります。全ての世話役はドイツ語の山崎隆司先生で発足時すでに2、3年の俳句歴がありました。その他は素人ばかりでしたが今では下手なりに句会を楽しんでいます。以後現在まで月一回の句会を持ち先日は第75回句会を大津唐崎神社で持ちました。第24回句会報を見ると「めい句再録」として次の句があります。

~~~~~

|                                      |                                  |                                             |                                  |                                       |                                  |                                        |
|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------|
| バレン<br>タイン<br>くれし<br>娘の名<br>はチヨ<br>子 | 甘柿と<br>思っ<br>てか<br>じり<br>渋<br>き顔 | 知らぬ<br>花紫<br>蘭と<br>聞<br>きて<br>辞書<br>をひ<br>き | 秋す<br>だれ<br>嵐の<br>夜に<br>家出<br>した | 銀杏<br>焼く<br>胃腸<br>の調<br>子異<br>常な<br>し | 初句<br>会五<br>句八<br>苦の<br>汗を<br>かく | 螢火<br>やき<br>みよ<br>不孝<br>のま<br>まで<br>あれ |
| 隆<br>司                               | 豊<br>夫                           | 興<br>三                                      | 香<br>寿<br>美                      | 良<br>行                                | 雄<br>介                           | 務<br>人                                 |

~~~~~

次回からは山崎先生の担当で本当の名句が紹介される筈です。御関心のある方々の大阪医大俳句会へのご参加をお待ちしています。

〔文責 今井雄介〕

附 属 病 院

平成5年度下半期附属病院患者動態

本年度下半期の患者動態は下記の通りです。

平成5年度附属病院患者動態

(平成5年10月～平成6年3月)

	人		対前年度増減率%	
	入院患者数	外来患者数	入院患者数	外来患者数
H. 5.10	(858.4) 26,610	(2,553.5) 63,838	△ 0.13	△ 2.70
H. 5.11	(867.1) 26,013	(2,623.1) 62,955	△ 0.38	7.52
H. 5.12	(801.9) 24,859	(2,695.0) 61,986	△ 2.94	2.59
H. 6. 1	(761.1) 23,593	(2,524.3) 58,058	△ 6.41	3.14
H. 6. 2	(883.3) 24,733	(2,482.0) 57,087	△ 0.43	0.84
H. 6. 3	(883.5) 27,390	(2,549.1) 66,277	△ 1.14	△ 1.67
合 計	(841.7) 153,198	(2,570.8) 370,201	△ 1.87	1.46

()内は、1日平均患者数

*平成5年度下半期入院関係稼動日数182日(平成4年度も同)
外来関係稼動日数144日(平成4年度も同)

平成4年度・5年度(年間……1日平均)の動態

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
4年度	866人	88.1%	2,518.5人
5年度	853	86.8	2,553.1

(内 訳)

上半期(4月～9月……1日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
4年度	873人	88.8%	2,503.9人
5年度	865	88.0	2,536.0

下半期(10月～3月……1日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
4年度	858人	87.3%	2,533.9人
5年度	842	85.7	2,570.8



卒業式は、厳粛かつ緊張感あふれる入学式と違って、参列者全員からほのかな満足感と解放感があふれる。あちこちでそれと分かる明るい談笑の輪も生まれる。この日の花形は何といっても着飾った和服が目を引く女性たち。賑やかに記念写真に収まるとき、スーツ姿の男性は協役的存在になる。(写真は医学部卒業生の記念撮影前の風景)

大阪医科大学学報	第20号
発行年月日	平成6年5月10日
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 辻倉忠男
編集・発行	総務部庶務課

正 誤 表

下記のとおり誤りがありましたので訂正致します。

頁	行	誤	正
2	上から 2行目	本法人の寄附行為を変更するにあ たりましては	本法人の寄附行為を変更するにあ たりまして
5	写真下	(医学部卒業式後の歓談)	(医学部入学式後の父兄との歓談)
7	右 側 上から 8行目	恵心	専心
9	左 側 下から 8行目	1年間	2年間
14	右 側 上から 8行目	図書館館長	図書館長
"	右 側 下から 3行目	学校	学校長
27	左 側 上から 11行目	の収支	の収入
"	右 側 下から 7行目	(4.4%)	(4.4%増)
28	左 側 上から 7行目	『消費収入』	『消費支出』